



株主の皆様へ

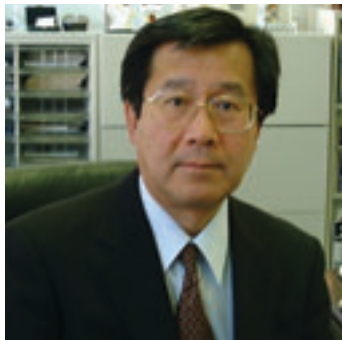
第20期 中間事業報告書

平成16年7月1日～平成16年12月31日

目次	トップメッセージ	1
	特集－PSS開発最前線	3
	連結財務ハイライト	5
	製品区分別業績概況（連結）	6
	連結財務諸表（要旨）	7
	個別財務諸表（要旨）	9
	通期の見通し	10
	IRだより	11
	会社説明会のご案内	12
	株式の状況・会社概要	13
	株主メモ	14


Precision
System
Science
Co., Ltd.

<http://www.pss.co.jp>



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
第20期中間事業報告書（平成16年7月1日～平成16年12月31日）をお届けするにあたり、日頃からの格別のご支援・ご理解に心より厚く御礼申し上げます。また、この度は業績予想の修正を行なうなど、株主の皆様には大変なご心配をおかけすることとなり、心より深謝申し上げます。

連結業績概況

当中間連結会計期間におきましては、主力OEM先の1社であるキアゲングループ向けDNA自動抽出装置等が好調であったこと、ドイツ子会社で販売しているOEM先向けのプラスチック消耗品販売も好調に推移したこと、また、第1四半期に売上計上した韓国ファイナンス・テクノロジー・インターナショナル社への販売権付与契約などが大きく貢献し、売上高1,395百万円（前年同期比51.8%増）と大幅な増収を確保いたしました。これに伴い、売上総利益も551百万円（前年同期比53.1%増）と大幅な増収を確保することができました。

しかしながら、開発費190百万円（前年同期比16.0%増）をはじめとして諸経費が増加し、販売費及び一般管理費650百万円（前年同期比21.4%増）と大幅なコスト負担増加となりました。

その結果、営業損失99百万円（前年同期比では76百万円の赤字幅圧縮）、経常損失93百万円（前年同期比では117百万円の赤字幅圧縮）、中間純損失は109百万円（前年同期比では105百万円の赤字幅圧縮）となりました。

開発活動

これら販売費及び一般管理費の増加の要因としては、開発活動の活性化による開発費の増加を中心として、いくつかの要因が重なっていますが、その主なものは、

① (株)三菱化学ヤトロン向けOEM製品

小型免疫化学発光測定装置「PATHFAST」(パスファースト)

昨年12月の市場投入を目指し、共同開発を進めてまいりましたが、主としてソフトウェア開発・検証に予想以上の時間を要することとなり、追加開発費が発生いたしました。

それに伴い、実際の上市も3～4ヶ月伸びる結果となりました。ただし、当社から(株)三菱化学ヤトロンに対しては、初期在庫確保の観点から、ハードウェア(装置)の出荷は開始されております。今後、ソフトウェアの検証完了をもって、本格的な製品販売となる予定であります。

② 糸状DNAチップ「ハンディバイオストランド」

昨年12月の市場投入に向け、開発活動を続けてきておりますが、何とか製品化の目途がつき、12月の分子生物学会には製品展示を行いました。しかしながら、量産化に向けて



は、追加開発費が発生いたしました。現在、初回の販売在庫50台の製品製造に取り掛かっており、3月中での本格販売開始の予定であります。

③ 試薬事業の拡大

当社システムに搭載可能な試薬に関するマーケティングの結果、試薬の開発項目が増加いたしました。これまでは、DNAやRNAの単純な抽出・精製を目的としたものでしたが、今後の業界需要は、遺伝子発現解析やSNPs解析に対するサンプルプレップや一貫前処理システム等、具体的な目的と直結した試薬と自動化システムが求められてきています。こういった動きに対応するため、国内外の様々な試薬メーカーとの接触を図っており、当社システムに搭載可能な試薬を集め、製品化に向けたアプリケーション開発を実行しております。

④ 新規技術開発

「All Process in Tip Technology」(注)

(オール・プロセス・イン・ティップ・テクノロジー)

当社グループの特許技術として、すでに事業化されている磁性体の反応工程制御技術である「Magtration® Technology」(マグトレーション・テクノロジー)に加えて、当社グループは磁性体以外の素材にも注目し、ほぼ1年前から、「各種の非磁性体素材を搭載したティップ」とそのシステム開発に取り組んでおります。この開発の目的は、ポスト遺伝子網羅的解析としての遺伝子発現解析、有用タンパク質の定量測定、バイオマーカーのマルチプレックス測定など、今後の本格的なシステム需要に直結したもので、当社グループが以前から取り組んできた「Magtration®+α」の実用開発のスタートと言えるものです。現在、非磁性体素材の技術を持つ事業体との提携も進めており、事業の柱の拡大につなげたいと考えております。

上記以外にも、新たに開発活動に入った新規テーマがある他、事業活動の活発化により、旅費交通費などいくつかの費用項目の増加も重なり、結果、当初見込を大きく上回る費用計上となったものです。

今後の事業展開

当社グループは、ロシユグループ及びキアゲングループという優良なOEM先を確保しており、(株)三菱化学ヤトロンという新規OEM顧客との製品も上市直前の状況となっています。また、複数の新たな商談も進んでいることから、事業自体は順調に拡大の方向に進んでいるものと認識しております。

一方で、OEM先との連携、装置開発、試薬開発など様々な事業活動を並行的に進めていること、また、継続的な技術開発が加速していることから、ここ数年で人員規模も倍以上に急拡大しており、事業収支と諸費用のバランス設定に課題を抱えている状況が、当中間連結会計期間の結果であります。これらの改善策として、今2月には社内組織体制の見直しを図り、新体制にてこういった問題に対処し、リソース配分やコスト管理も含めてきめ細かい対応を行っていく方針であります。

今下期の事業活動に関しましても、いくつかの新規案件を速やかに事業に結びつけ、それらを売上計上し業績貢献できるように懸命に活動し、この度の修正予想を改善できるよう努力してまいりますので、何卒、当社グループの中長期的な事業進展をご理解いただき、引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

田島秀二

(注) Tip (ティップ) とは、液体の吸引突出に利用されるスポイトのようなものであり、液量をコントロールできる唯一の道具であります。(DNAチップなどのChipとは異なります。) この内部に様々な素材を封入し、あらゆる反応をティップ内部で行うことにより、非常にシンプルでシステム構築が可能となる構想を持っています。

新規製品 ハンディバイオストランド ～開発の現場より～

「ハンディバイオストランド・プロジェクト」のメンバーの朝比奈研究員と吉田研究員にインタビューしました。

Q1. ハンディバイオストランドとは何（どういうもの）ですか？

DNA 鑑定・DNA 解析という言葉を目にする機会が多くなれたと思いますが、これに用いるシステムです。システムというよりは、ハンディサイズの器具セットで、これだけで簡単に誰でもDNA解析できるといったものです。さらに、このキットでは当社グループが独自開発した新型のDNAチップ「バイオストランド」を利用します。従来のDNA解析手法では、高額な装置や費用がかかるといった問題点がありましたが、ハンディバイオストランドではそれらの問題点を解決する可能性があると思います。

Q2. 開発する中で苦労した点あれば教えてください。

「誰でも簡単かつ上手に出来る」ことを可能にするために苦労しました。特に、特殊な糸素材を使用するため、消耗品などは細部の形状の決定に時間がかかりました。試しては形状変更することを繰り返し、完成させました。

Q3. 昨年末には海外にも出張なさっていたようですが？

貴重な体験をさせて頂きました。共同開発研究先（ニューヨーク）に10日ほど滞在していました。実際に作業（実験）している方とお会いすることがとても大切だと痛感しました。お会いしてお互いの意見が明確にわかり、意思疎通が



できたことで、書面上では見えなかったことが見え、また、作業環境もよくわかったので、今後は今まで以上に共同開発がやりやすくなると思います。

Q4. もう市場販売しているのですか？

昨年12月の分子生物学会に出展させていただきました。会場では、大学の先生方からも、「これまでにないタイプ」ということで非常に関心を寄せていただき、ホッと一安心といったところです。このお披露目により、ハンディバイオストランドを皆さんにご認知いただくことができ、そして今、実際に使用していただくことが開始されました。既に国内外の大学や研究所で、テーマ別に検証・実証をスタートしていただいています。

また、市場販売といった面では、当初予定していた昨年12月には実現できませんでしたが、今春には、ハンディバイオストランドの市場販売を開始する計画です。

Q5. 最後に、開発者として、ハンディバイオストランドへの思いをお聞かせ下さい。

入社以来、無我夢中で開発してきたバイオストランドですので、世界中の方に使っていただける製品になるよう、これからも精一杯頑張りたいと思います。



小型免疫化学発光測定装置

PATHFAST 出荷開始！

(株)三菱化学ヤトロン向けに臨床検査用小型免疫化学発光測定装置「PATHFAST」の出荷を開始しました。

*本装置の正式発売は平成17年春に延期されましたが、当社から(株)三菱化学ヤトロンへの出荷は予定どおり開始されました。



「PATHFAST (パスファースト)」 Q & A

Q. 免疫測定装置 (PATHFAST) とこれまでのDNA自動抽出装置はどう違うの？

どちらも当社グループの特許技術マグトレーションを用いた自動化装置ですが、使用目的・分野は異なります。

まず、免疫測定装置である「PATHFAST」は、ヒトの体に備わっている免疫機能 (*抗原抗体反応) を利用した検査装置です。この装置で生体中 (血液中) の抗体量を調べることで、病気の発症状態を検査します。「ポイント・オブ・ケア検査 (POCT)」といわれるような、入院患者のベッドサイドでリアルタイムに測定結果をモニターする検査や、外来での診療中に直ちに結果を得る検査に利用することを主眼とした簡易・迅速検査のための自動化装置です。

一方、DNA自動抽出装置は、血液や細胞などからDNAを抽出する装置で、主に大学や病院の研究施設で利用されています。この装置で抽出されたDNAは、増幅工程を経て、その後DNA解析されることが一般的です。

*抗原抗体反応とは？

生体には、外部からの刺激・異物である「抗原」に対して、自己を守るために、生体中で「抗体」を作るという働きがあります。外部からの抗原と、生体を守ろうとする抗体が結合(反応)して、抗原の働きを止め、無毒化する反応を抗原抗体反応といいます。抗原には、細菌やウイルス、花粉、大気汚染物質などがあります。

Q. PATHFAST (パスファースト) ではどんな検査ができるの？

PATHFASTでは、検査項目により用いる試薬 (診断薬) が異なります。これら試薬は、(株)三菱化学ヤトロンで開発されており、現在は主に心疾患の検査を対象としたものが開発されています。

Q. PATHFAST (パスファースト) の業績貢献度はどれくらい？

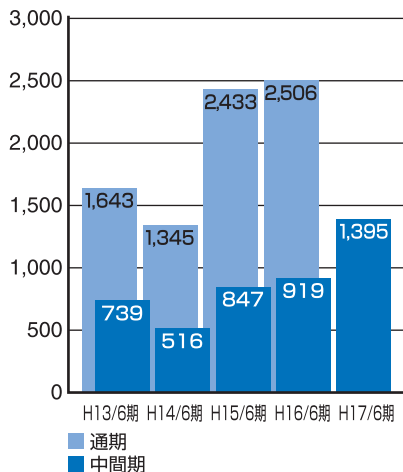
当期 (第20期) においては、約2億円の売上を見込んでおり、当中間連結会計期間は、順調に出荷することができました。下期以降の詳細については、10ページをご参照ください。



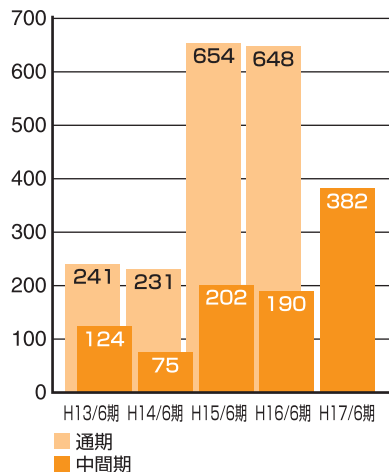


連結財務ハイライト

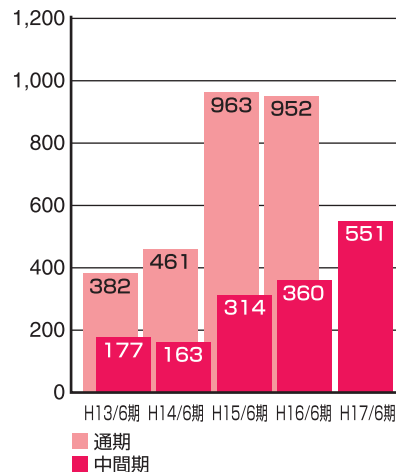
売上高 (百万円)



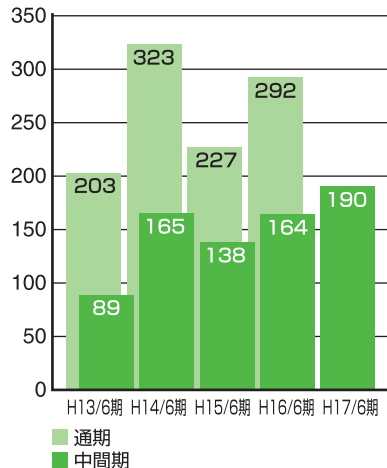
DNA自動抽出装置等販売台数 (台)



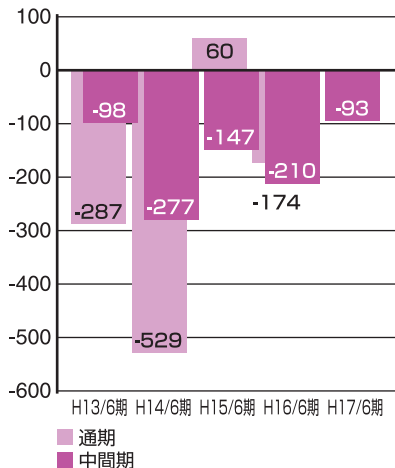
売上総利益 (百万円)



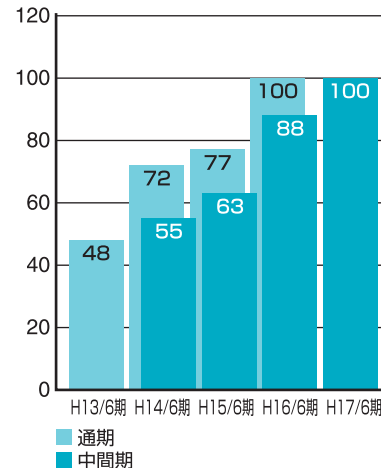
開発費 (百万円)



経常利益 (百万円)



従業員数 (名)

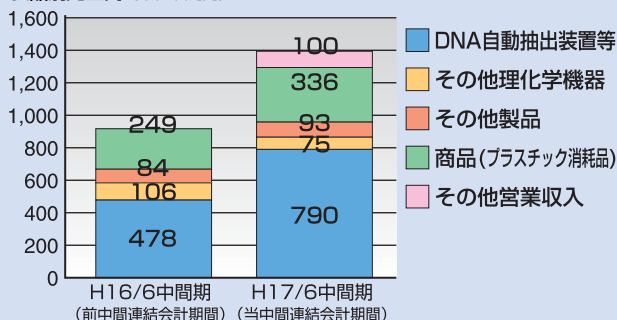


- (注) 1. 金額表示につきましては表示単位未満を切り捨て記載しております。
 2. H14/6期より連結財務諸表を作成しているため、H13/6期は個別財務諸表の数値を用いております。
 3. 従業員数については、グループ内の役職員、派遣社員、パート等を含む人数を記載しております。

製品区分別業績概況（連結）



製品別売上高（単位百万円）

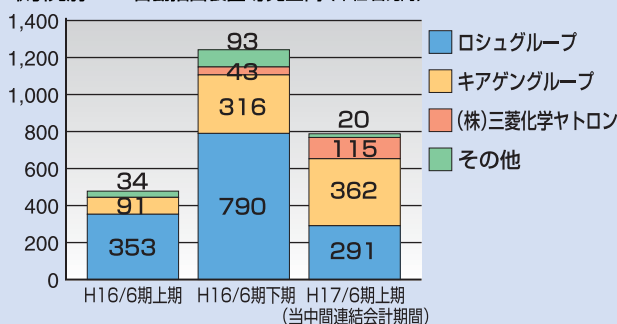


① DNA自動抽出装置等

当区分は、当社グループの国際特許技術であるマグトレーション・テクノロジーを利用した自動化装置の区分であり、DNA自動抽出装置の他、免疫化学発光測定装置も含まれております。DNA自動抽出装置等に関しては、バイオ研究分野の進展に伴い、多検体の短時間処理が必要となってくるため、その需要は拡大していくものと当社グループでは考えております。

当中間連結会計期間は、主力OEM先の1社であるキアグループ向けの出荷が好調に推移したこと、(株)三菱化学ヤマトロンに対する新規OEM製品の出荷が開始されたことから、382台の販売実績で売上高790百万円（前年同期比65.0%増）となりました。

取引先別DNA自動抽出装置等売上高（単位百万円）



② その他理化学機器

当区分は、研究施設などで利用される各種自動化機器の他、各省庁やその外郭団体などからの受託開発事業の区分であります。

当中間連結会計期間は、売上高75百万円（前年同期比29.2%減）となりました。当区分の売上高は、特注システムの受注動向により大きく変動いたします。現在はDNA自動抽出装置等の事業拡大に注力しておりますので、当区分の売上高に占める割合は低下していくものと考えております。

③ その他製品

当区分は、装置メンテナンスやスペアパーツ（交換部品）販売、自社販売のDNA自動抽出装置等に使用される核酸抽出・精製のプレパック試薬、ソフトウェア開発などの区分であります。

当中間連結会計期間は、売上高93百万円（前年同期比11.4%増）となりました。装置メンテナンスやスペアパーツ販売などは、装置の累計出荷台数に応じて販売拡大が見込める性質があるため、当区分の売上高は、順調な伸長が期待できるものと考えております。

④ 商品(プラスチック消耗品)

当区分は、装置の使用に伴い消費されるチップやカートリッジなどのプラスチック消耗品の区分であります。当社グループのDNA自動抽出装置等に使用される専用の消耗品が中心となっております。

当中間連結会計期間は、売上高336百万円（前年同期比34.8%増）と順調な増収となりました。特に、ドイツ子会社にて販売している欧州OEM先向けの消耗品販売が好調に推移いたしました。プラスチック消耗品は、装置の累計出荷台数に応じて販売拡大が見込める性質があるため、今後も順調な伸長が期待できるものと考えております。

⑤ その他営業収入

韓国ファイナンス・テクノロジー・インターナショナル社との間で、(株)ポストゲノム研究所と共同開発中の「タンパク質自動合成装置」にかかるアジア圏（日本を除く）での独占販売権付与の契約を締結しており、同権利代金の収入であります。ただし、同収入は装置開発や試薬入手ルート確保などに利用しておりますので、利益に与える影響は軽微であります。

連結財務諸表（要旨）

●連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度末 (平成16年6月30日現在)	当中間連結会計期間末 (平成16年12月31日現在)
資産の部		
流動資産	3,766,567	3,409,929
現金及び預金	2,536,976	2,230,283
受取手形及び売掛金	719,544	509,521
たな卸資産	431,757	616,694
その他	79,662	53,874
貸倒引当金	△1,373	△445
固定資産	1,108,165	1,083,080
有形固定資産	1,053,695	1,028,943
建物及び構築物	269,970	275,847
機械装置及び運搬具	168,680	156,994
工具器具及び備品	179,091	164,851
土地	431,250	431,250
建設仮勘定	4,703	-
無形固定資産	29,605	35,360
投資その他の資産	24,864	18,775
資産合計	4,874,732	4,493,009
負債の部		
流動負債	1,177,645	969,886
買掛金	437,511	327,292
短期借入金	100,000	100,000
一年内返済予定の長期借入金	490,939	415,524
その他	149,194	127,069
固定負債	664,193	583,231
長期借入金	664,193	583,030
繰延税金負債	-	201
負債合計	1,841,839	1,553,118
資本の部		
資本金	2,024,978	2,024,978
資本剰余金	2,491,267	2,491,267
利益剰余金	△1,478,574	△1,588,234
その他有価証券評価差額金	△8,173	296
為替換算調整勘定	3,395	11,583
資本合計	3,032,893	2,939,891
負債・資本合計	4,874,732	4,493,009

資産

総資産は前年度末比381百万円減少の4,493百万円となりました。主な減少の要因は、現金及び預金の減少（前年度末比306百万円減）、受取手形及び売掛金の減少（前年度末比210百万円減）などです。一方、業容拡大に伴い、たな卸資産は増加（前年度末比184百万円増）しました。

負債

負債は前年度末比288百万円減少の1,553百万円となりました。主な減少の要因は、買掛金の減少（前年度末比110百万円減）、借入金の減少（前年度末比156百万円減）などです。

資本

資本は前年度末比93百万円減少の2,939百万円となりました。主な減少の要因は、中間未処理損失の増加（前年度末比109百万円増）によるものです。

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前中間純損失108百万円（前年同期は213百万円）、たな卸資産の増加186百万円（前年同期は300百万円の増加）などが減少要因となった一方、売上債権の減少215百万円（前年同期は182百万円の減少）などが増加要因となり、全体としては97百万円の支出（前年同期は280百万円の支出）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出54百万円（前年同期は58百万円の支出）、定期預金の預入による支出3百万円（前年同期は1,503百万円の支出）などが減少要因となり、全体では68百万円の支出（前年同期は1,382百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の返済による支出256百万円（前年同期は274百万円の支出）、増資による収入がなくなったこと（前年同期は2,299百万円の収入）などが減少要因となり、全体では156百万円の支出（前年同期は1,939百万円の収入）となりました。



●連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 自平成15年7月1日 至平成15年12月31日	当中間連結会計期間 自平成16年7月1日 至平成16年12月31日
売上高	919,105	1,395,591
売上原価	559,095	844,556
売上総利益	360,009	551,034
販売費及び一般管理費	535,397	650,227
営業損失	175,387	99,192
営業外収益	3,881	19,841
営業外費用	39,346	14,136
経常損失	210,852	93,487
特別利益	1,046	—
特別損失	3,879	14,941
税金等調整前中間純損失	213,686	108,429
法人税、住民税及び事業税	1,326	1,231
中間純損失	215,012	109,660

●連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 自平成15年7月1日 至平成15年12月31日	当中間連結会計期間 自平成16年7月1日 至平成16年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△280,777	△97,553
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,382,764	△68,262
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,939,434	△156,578
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10,938	12,701
現金及び現金同等物の増加額または減少額(△)	264,954	△309,692
現金及び現金同等物の期首残高	888,896	1,376,476
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,153,850	1,066,783

売上高

売上高は前年同期比476百万円増加(同51.8%増)の1,395百万円となりました。主な増加の要因は、主力OEM先の1社であるキアゲングループ向けの販売及びドイツ子会社で販売しているOEM先向けのプラスチック消耗品が好調に推移したことによるものです。また、韓国ファイナンシャル・テクノロジー・インターナショナル社への販売権付与による100百万円も計上されています。

売上総利益

売上総利益は前年同期比191百万円増(同53.1%増)の551百万円となりました。売上総利益率は前年同期比で0.3ポイント改善し、39.5%となりました。

販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は前年同期比114百万円増加(同21.4%増)の650百万円となりました。主な増加の要因は、新規製品である(株)三菱化学ヤトロン向けPATHFAST(パスファースト)やハンディバイオストランドなどの製品化に向けた事業活動が活発化したことによる開発費をはじめとした諸費用の増加によるものです。

特別損失

特別損失は前年同期比11百万円増加(同285.1%増)の14百万円となりました。主な増加の要因は、業務提携先である英国テブネル・ライフ・サイエンス社の株式について、投資有価証券評価損14百万円を計上したためです。



個別財務諸表（要旨）

●貸借対照表

（単位：千円）

	前期末 (平成16年6月30日現在)	当中間期末 (平成16年12月31日現在)
資産の部		
流動資産	3,533,362	3,130,166
固定資産	1,312,642	1,331,517
有形固定資産	1,004,683	973,809
無形固定資産	29,087	34,991
投資その他の資産	278,872	322,717
資産合計	4,846,005	4,461,684
負債の部		
流動負債	1,152,600	949,342
固定負債	664,193	583,231
負債合計	1,816,794	1,532,574
資本の部		
資本金	2,024,978	2,024,978
資本剰余金	2,491,267	2,491,267
利益剰余金	△1,478,860	△1,587,432
その他有価証券評価差額金	△8,173	296
資本合計	3,029,211	2,929,110
負債・資本合計	4,846,005	4,461,684

●損益計算書

（単位：千円）

	前中間期 自平成15年7月1日 至平成15年12月31日	当中間期 自平成16年7月1日 至平成16年12月31日
売上高	798,554	1,220,232
売上原価	495,620	762,681
売上総利益	302,934	457,550
販売費及び一般管理費	445,244	552,104
営業損失	142,309	94,554
営業外収益	1,540	16,089
営業外費用	40,381	14,019
経常損失	181,150	92,484
特別利益	1,022	—
特別損失	53	14,941
税引前中間純損失	180,182	107,426
法人税、住民税及び事業税	1,144	1,144
中間純損失	181,326	108,571



通期の見通し

(単位：百万円)

	予想売上高	予想営業利益	予想経常利益	予想当期純利益
業績予想 (連結)	2,900	△90	△100	△115
業績予想 (個別)	2,570	△80	△95	△110

当中間連結会計期間末時点でのDNA自動抽出装置等の受注残高は641百万円（前年同期比11.6%減）となっております。前中間連結会計期間末には、日本赤十字社向けの大型機種の受注が計上されておりまして、前年同期比では減少となっておりますが、当期の第1四半期末の受注残高539百万円に比すれば18.8%増であり、順調に受注残高は増加していると言えます。受注残高については、今後3～4ヶ月程度で出荷されていく予定であります。

●取引先別予想売上高（連結）

	当中間連結 会計期間 実績	下期 予想	当連結会計年度 通期予想 (合計)		前連結会計年度 実績		対前期比 増減率
			金額	構成比	金額	構成比	
ロシユグループ	568	631	1,200	41.4	1,513	60.4	△20.7
キアゲングループ	431	568	1,000	34.5	505	20.2	97.9
(株)三菱化学ヤトロ	127	72	200	6.9	55	2.2	262.7
その他	268	231	500	17.2	432	17.2	15.7
合計	1,395	1,505	2,900	100	2,506	100	15.7

①ロシユグループ

前連結会計年度には日本赤十字社向けの大型案件がありましたので、当初から前期比で減収予想としておりましたが、上期実績と受注状況を勘案し、通期予想を1,200百万円（当初予想比△100百万円減）といたしました。

②キアゲングループ

当中間連結会計期間は非常に好調な出荷推移となっており、現在の受注状況から考えますと下期も好調が維持されると思われるので、通期予想を1,000百万円（当初予想比300百万円増）といたしました。

③(株)三菱化学ヤトロ

初期在庫確保の観点から上期は相応のハードウェア（装置）の出荷がありましたが、市場投入時期の延期を受け、下期の売上高は減少する見通しであり、通期予想を200百万円（当初予想比△100百万円減）といたしました。

④その他取引先

当中間連結会計期間には韓国企業との販売権付与契約による売上100百万円がありましたが、下期は減額見通しとなっており、当初予想に変更なく、通期予想500百万円を据え置きました。

■為替の影響

為替レート関しましては、近時の相場を勘案し、1ドル=107円、1ユーロ=135円と想定しております。

当社はユーロ相場に影響を受ける製品が多く、現在の売上予想に対して、下期を通じて平均レートが5円変動いたしますと、売上高及び売上総利益は約20百万円（円安ならばプラス、円高ならばマイナス）の影響を受ける見通しとなっております。



当社では、平成13年2月の上場以降これまで、首都圏を中心に年4～5回の会社説明会を開催して参りました。さらに、昨年4月（東京）及び11月（東京及び京都）の会社説明会では、（中間）事業報告書に、ご案内を掲載させていただき、株主総会にご出席いただけない株主の皆様にも広くご参加賜りました。

このページでは、昨年の説明会にて、株主の皆様から頂戴いたしましたご質問、ご要望等とそれらに対する弊社回答・見解について、ご紹介させていただきます。

Q. 現在の低調な株面推移についてどのようにお考えですか？

前期の業績予想の下方修正以降、株価は低調に推移しております。下方修正という形で、株主の皆様や株式市場の期待を裏切った結果として、厳粛に受け止めております。

今後、当社は、業績改善及び業績予想の精度向上の双方の観点から下記のように対処していきます。まず売上の面では、ロシュ、キアゲンといった大口顧客数を徐々に増やしていくことで、個別企業の事情により弊社業績が影響を受けるリスクを軽減してまいります。当期においては(株)三菱化学ヤトロンを新たに大口顧客として獲得しました。

また、各プロジェクトについても、プロジェクト推進委員会を設置し、開発、技術、営業、管理、業務の全ての取締役本部長と部長がメンバーとなり、プロジェクト推進にかかるリソース配分やコスト管理などの意思決定を行い、きめ細かい対応を行なっていく方針であります。

これら取り組みにより、業績改善及び業績予想の精度向上を具現化することで、株価も安定的に推移していくものと考えております。

Q. 以前話のあった米空軍研究所向けの開発はどうなっているのですか？

この案件は、米国子会社PBIが窓口となっており、現在も進捗中です。現在は、試作機の評価を行っておりますが、売上計上額やその時期については未定です。

Q. 配当政策についてのお考えをお教えてください。

前期末においてPSS単体で1,478百万円の未処理損失を計上しているため、現在はまだ、商法上の配当可能利益を確保できない状況にあります。業績の黒字化及び累積損失解消の目処が立ち次第、できるだけ早く配当を実施していきたいと考えております。

Q. キャッシュフローの状況はどうなのでしょう？

事業規模の拡大に伴い、在庫や売掛金などの必要運転資金が増加することが予想されますが、2003年秋の公募増資等により、現在の手元資金は潤沢な状況にあり、特段の問題はありません。

Q. 今後も定期的に会社説明会を地方でも開催して欲しい。（ご要望）

昨年より始めた地方開催ですが、全国にいらっしゃる株主の皆様にご参加いただけるよう、今後も継続的に行なっていきたいと考えております。当面、（中間）事業報告書のご案内により、年に2回ずつ、首都圏と地方圏でそれぞれ開催していくことを計画しております。地方開催につきましては、その都度異なるエリアになるかもしれませんが、より多くの株主の皆様にご参加いただけるよう考えて参りたいと思います。



会社説明会の開催予定と参加申込方法

開催日時	平成17年4月12日（火） 13：00～14：30（予定）	平成17年4月16日（土） 13：30～16：00
会場	東京証券会館 9Fホール 東京都中央区日本橋茅場町1-5-8 TEL:03-3667-9210 【交通】 地下鉄（東京メトロ）日比谷線・東西線 「茅場町駅」中央改札口8番出口より直結	ハートンホール（大阪心斎橋） 大阪市中央区南船場4-2-4 日本生命御堂筋ビル12F TEL:06-6258-1141 【交通】 地下鉄御堂筋線「心斎橋駅」3番出口より徒歩2分
内容	社長田島秀二より、直近の業績概況及び事業進捗について、説明申し上げます。	3-4社合同開催の会社説明会（ブリッジサロン）です。 東京会場と同様に、社長田島秀二より、直近の業績概況及び事業進捗について、説明申し上げます。
ご参加申込方法	中間事業報告書裏表紙の申込葉書に必要事項をご記入の上、弊社宛ご返送ください。後日、会場地図等の詳細につきまして、郵送にてご案内申し上げます。	
その他お問い合わせ	プレジジョン・システム・サイエンス株式会社 業務本部 IR・経営企画グループ TEL：047-303-4800	



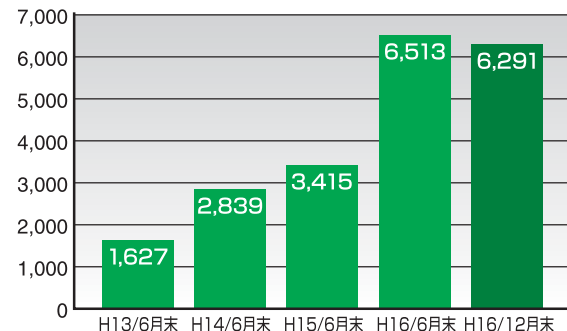
株式の状況 (平成16年12月末現在)

会社が発行する株式の総数133,984株
 発行済株式の総数41,468株
 株主数6,291名

大株主

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
田島秀二	10,933	26.38
有限会社ユニテック	3,000	7.24
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	663	1.60
大阪証券金融株式会社	615	1.48
井上 功	302	0.73
株式会社ジャフコ	226	0.55
細矢礼二	224	0.54
プレジジョン・システム・サイエンス 従業員持株会	199	0.48
秋本 淳	196	0.47
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	180	0.43

■株主数推移(名)



会社概要 (平成16年12月末現在)

商号 プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
 (英文社名) Precision System Science Co., Ltd.

設立年月日 1985年7月17日

役員 代表取締役社長 田島 秀二
 常務取締役 小幡 公道
 取締役 高橋 正明
 取締役 秋本 淳
 取締役 長岡 信夫
 取締役 西村 掃司
 取締役 平原 善直
 社外取締役 地崎 修
 監査役 高橋 達雄
 監査役 筧 悦夫
 監査役 鈴木 啓靖

*松野卓也氏は、平成17年1月31日をもって退任いたしました。

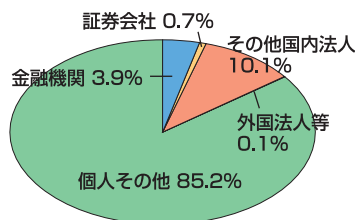
資本金 2,024百万円

従業員数 100名(グループ会社役員、派遣社員、パート等を含む)

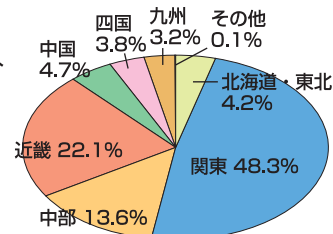
連結子会社 PSS Bio Instruments, Inc.(USA)
 Precision System Science Europe GmbH
 (Germany)
 ユニバーサル・バイオ・リサーチ(株)
 (千葉県松戸市)

事業内容 遺伝子・プロテオーム解析関連業界における
 研究開発やその研究成果の実用化に用いられる
 自動化装置、その他理化学機器、ソフトウ
 ェア等の開発及び製造販売、ならびに自動化
 装置に使用される試薬及びプラスチック消耗
 品の製造販売等

■所有者別保有株式数分布



■地域別株主分布





- 決算期
毎年 6月30日
- 定時株主総会
営業年度末日の翌日から3ヶ月以内
- 基準日
定時株主総会 毎年 6月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
- 権利確定日
利益配当金 毎年 6月30日 中間配当金 毎年 12月31日
- 名義書換代理人
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
- ◆同事務取扱場所
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
- ◆郵便物送付先
〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
- ◆電話お問い合わせ先
電話 03-5213-5213 (代表)
- ◆ホームページアドレス
<http://www.mizuho-tbco.jp/daikou/>
『お手続き内容』で一部届出用紙の出力ができます。
- ◆同取次場所
みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
- 公告掲載新聞
日本経済新聞
なお、商法特例法第16条第5項に定める貸借対照表及び損益計算書に係る情報は<http://www.pss.co.jp> において提供しております。

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社 個人投資家向け会社説明会

ご参加を希望される会社説明会にをご記入の上、
本状を弊社宛ご返送ください。

東京開催

開催日時 平成17年4月12日(火) 13:00~14:30 (予定)

開 場 東京証券会館 9階ホール
東京都中央区日本橋茅場町1-5-8

TEL 03-3667-9210

交通 地下鉄(東京メトロ)
日比谷線・東西線「茅場町駅」中央西改札口8番出口より直結

大阪開催(3-4社合同開催)

開催日時 平成17年4月16日(土) 13:30~16:00

開 場 ハートンホール(大阪心斎橋)
大阪市中央区南船場4-2-4 日本生命御堂筋ビル12F

TEL 06-6258-1141

交通 地下鉄
御堂筋線「心斎橋駅」3番出口より徒歩2分

●お問い合わせ

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社 業務本部 IR・経営企画グループ
TEL:047-303-4800

郵便はがき

271-8790

料金受取人払

松戸局承認

968

差出有効期間
平成17年4月30日
まで(切手不要)

千葉県松戸市上本郷88

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
業務本部 IR・経営企画グループ 行



お名前	フリガナ	ご年齢	歳
ご住所	<input type="text"/>		
TEL	<input type="text"/>		

PSS IRメール配信のご案内

PSSでは、個人株主・投資家の皆様とのコミュニケーションを高めるため、Eメール配信を行なっております。プレスリリースや会社説明会のご案内などを、オンタイムでお知らせしております。

PSSホームページ(<http://www.pss.co.jp>)からもメールアドレス登録ができますので、是非ご登録ください。

プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
業務本部 IR・経営企画グループ

〒271-0064 千葉県松戸市上本郷88

TEL : 047-303-4800 FAX : 047-303-4810

お問い合わせメール : ir@pss.co.jp

URL : <http://www.pss.co.jp>